

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(1号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	平成28年7月3日	評価結果市町村受理日	平成28年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kami=true&jiyosvoCd=2275500565-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。・一日1回は職員と1対1で散歩や外気浴に出掛け、関わりを持つ中で一人ひとりの思いを聞いていく。・職員出勤時には、利用者様一人ひとりに名前を呼んで挨拶をする。・家事の手伝い等役割をもって頂く。・火災訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から14年の月日を積み重ね、介護福祉士取得者50%超、管理者となれる人が5名、計画作成担当者となることが出来る職員は10名余と豊かな人材に恵まれています。「ゆったりと楽しく自由に」「ありのまま仲間と一緒に」「地域の中で暮らす」が育まれ、1歩足を踏み入れると職員と利用者の和合がしみじみと感じられます。特に「その人の想いを大切にすること」に尽力し、一旦退居し1年後に再入居した人もいて、介護計画書の中に「自宅に戻って暮らす」という目標をもつ利用者のいることに感心します。管理者の朗らかな振舞と度量に一人ひとりの職員も呼応して、利用者へのざっくばらんな関わりの中にも慈愛が感じられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活が出来るようにお手伝いしている。	法人理念は朝礼で唱和し、事業所理念の掲示もあります。足を1歩踏み入ると職員と利用者の和合がしみじみと感じられ、14年の歴史の重さとともに理念の浸透が感じられる事業所です。	外部者からもわかるほど浸透は充分ですが、職員が実感できさらに向上できるように省みる機会を設けることを期待します。 例.理念に基づき個人目標をつくる
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。畑を借り作物を育てる。保育園児の来設、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。行事等の時駐車場を借りる。	近年始まった保育園との交流は運動会の招待を受けるまで発展し、畑には職員が看板を取り付け近所の人との話材にもなっています。中学校の職場体験では本人が「やりたいこと」に目覚めるきっかけとなり、介護の仕事に就いたという嬉しい実績もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。	運営推進会議と併催での学習会はメンバーからも「またやってほしい」と好評で、地域の総合病院の応援を得て続いています。行政、家族のほかに地区以外も含み民生委員は3名、町内会長、市議員と堅い顔ぶれですが、和気藹々とした雰囲気の中おこなえています。	議事録を行政、家族に届けるか否かを改めて検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようにしている。	夜間開催にも拘らず運営推進会議に毎回出席くださり、事故だけでなく地域活動等の小さなことも相談にのってもらえる関係にあり、助言に助けられています。年3回の地域ケア会議だけでなく、地域包括支援センター主催の集まりにも積極的に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備し、玄関の施錠も最小限の必要時以外は掛けないように取り組んでいる。「座って、待って」等スピーチロックをしまう事もあり意識しながらケアに取り組みたい。	現在対象となる利用者はいませんが、必要となる書面は備えています。海辺の街気質の言動は管理者も気になる場所ですが、利用者中心で鑑みれば遣いなれた言葉に同調した方がよいとの判断に至り、大きな声や粗い言葉も活気の一つとして常態化しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化し、職員が虐待防止に関する知識を得ており、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいるため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来設した時利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞くような関係性作りに努めている。	運営推進会議には固定メンバーとして3家族に依頼をしていますが、事業所が都度個々に声をかけてのプラスαの参加者もいて、総体としては協力を得ることができています。本年初めて事業所通信を発行することとなり、相互理解がなお深まることが期待されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングや日々で気軽に意見や提案が言える機会を設けている。	掲示物、食材注文といった日常業務を担当制として、責任感が醸成されるとともに意見が自然にやすくなっています。運動会一つとっても各号館で合言葉を作成して、衣装も合わせて取組むとのエピソードからは職員の熱い意欲が伝わります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の年2回の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	独自の施設交流会(勉強会)や系列施設の新人職員勉強会や地域の特別養護老人ホーム主催による介護技術研修会等にも参加させて頂く環境にありサービスの質の向上の取り組みが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要があれば他のサービス等の説明もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援している。	家族の面会頻度は様々ですが、月1回は支払いを兼ねた訪問が必ずあります。馴染みの美容師が事業所に赴いてくださったり、親戚の法要に出かける人、また週1回は電話を入れてくださる家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、一緒にお茶をしたり歌を唄ったりする中で困っている利用者様を助けている姿も見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。退居されたご家族から入居したい方の紹介もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。	1対1でのときでた発語の記録、申し送りノートのメモ化(なんでも書く)に力を入れています。また一旦退居し1年後に再入居した実績もあり、現在介護計画書の中に「自宅に戻って暮らす」という目標をもつ利用者もいて、その人の想いを大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化等出勤時の名前を呼びながらの挨拶時やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや出来る事をやっていくを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。	計画作成担当者となれる職員が10名余いて、同じ土俵で協議ができる環境にあります。「だけや〜」「くりようや〜」と、方言での本人発言がそのまま記載された介護計画書は「その人らしさ」が滲み、職員の日頃の寄り添いが視えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにいかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。利用者様によってはご家族との外食や外出。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、産業祭等への参加。近所の畑や駐車場を借りる。近所でのいちご狩り、いも掘り。地域の店での買い物。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。運営推進会議への地域住民、警察、薬局、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。	全体の8割が協力医に変更し、また徒歩で行ける医院なことから散歩がてら職員が受診支援しています。家族が付添う場合は必要であればバイタルなどを手渡しています。週1回訪れる看護師は褥瘡の処理といった技術面での向上を逐次評価くださり、職員の励みになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けている。	過去には終末期に点滴補充等往診下さり、携帯電話番号も教えてもらっている協力医は心強くなるものの、最期は病院となるケースがほとんどで事例としては余りありません。地域柄「手を尽くしたのか」という想いにかられる家族が比較的多いこともあり入院へとつながっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救急救命の講習会を開き再度受講をした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の目標を避難訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高めると意識づけて行っています。地元の消防団との関わりも再開する予定です。	恒例となっている台風シーズンの停電や浸水への対応は職員も手慣れ、年2回の法定訓練は参加しなかった職員がいないよう毎年気にかけて習得に努めています。また呼びかけが功奏し地域の消防団の来設も予定されています。	備蓄、特に飲料水の確保を改めて検討することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ時のドアの開閉、声がけに配慮する。	風土的なことからくる大きな声や強い語調があることは否めませんが、信頼と愛情のあるやりとりが見られます。中には内気でおとなしい性格の利用者も数名いて、個別対応にも配慮があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に。日課に沿って生活していくものの出来るだけ利用者の合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。	各館メニューが異なり、その日調理する職員の工夫で用意していますが、利用者が皮むきや刻み、こねなどを率先して手伝っています。収穫物の大葉を敷き、大根おろしが添えられた唐揚げの一皿には食を見て愉しむ姿勢が受けとめられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し1人を除き、布パンツで過ごされている。、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。	現在過半数が布パンツで、「パンツに戻れるとは思わなかった」と喜んでくださる家族もいます。「トイレに行きたい」と気軽に職員に声を掛けたり、職員の見守りで自力で立とうと頑張ったり、付き添われながらも歩行器でトイレにゆく光景を視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳・ヨーグルト)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)	四方八方に手すりが配されたタイル貼りの大きな浴槽には3人で入ることもあります。日曜日を休浴日とし週3日を目安としながらも、「毎日入りたい」人、「一番風呂がいい」人、「じっくり(1時間)がいい」人、様々な要望に応えるほか、夏季の試みとしてシャワー浴を2日増加しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝れるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉に張り合いや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブ、空港へ行く等提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的に行い本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。	日々の散歩は「僅かの時間でも1対1を」推進し、また回転寿司での外食や空港見学を通じて「外出は想いを聞き取る時間」と位置付けています。2号館は車いす利用が7割となり散歩量が減るなか、ドライブ外出では健脚な人が手伝ってくださり皆で出かけることが叶っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族から電話が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。	玄関には職員が自宅から持ち込んだ見事な生花が活けられ、壁には外出や行事の写真、クラフトが連なり、床にはチリ、埃が一切なく、普段目につかないスペースも大変清潔です。流れる懐メロを口ずさみながら洗濯たみをしたり、ジャガイモの皮むきをして過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。	テレビや家族写真が持ち込まれ、またカラフルな色目の洋服がインテリアの一つかのようにハンガーに吊るされた部屋もあります。居室前には職員がその人の写真をデコレーションアレンジした表札がかかり、ひと目で自室とわかります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用し自立した生活が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(2号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	平成28年7月3日	評価結果市町村受理日	平成28年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2275500565-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。・一日1回は職員と1対1で散歩や外気浴に出掛け、関わりを持つ中で一人ひとりの思いを聞いていく。・職員出勤時には、利用者様一人ひとりに名前を呼んで挨拶をする。・家事の手伝い等役割をもって頂く。・火災訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から14年の月日を積み重ね、介護福祉士取得者50%超、管理者となれる人が5名、計画作成担当者となることが出来る職員は10名余と豊かな人材に恵まれています。「ゆったりと楽しく自由に」「ありのまま仲間と一緒に」「地域の中で暮らす」が育まれ、1歩足を踏み入れると職員と利用者の和合がしみじみと感じられます。特に「その人の想いを大切にすること」に尽力し、一旦退居し1年後に再入居した人もいて、介護計画書の中に「自宅に戻って暮らす」という目標をもつ利用者のおられることに感心します。管理者の朗らかな振舞と度量に一人ひとりの職員も呼応して、利用者へのざっくばらんな関わりの中にも慈愛が感じられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活が出来るようにお手伝いしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。畑を借り作物を育てる。保育園児の来設、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。行事等の時駐車場を借りる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備し、玄関の施錠も最小限の必要時以外は掛けないように取り組んでいる。「座って、待って」等スピーチロックをしまう事もあり意識しながらケアに取り組みたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化し、職員が虐待防止に関する知識を得ており、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいるため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定を等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来院した時意見や要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で気軽に意見や提案が言える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の年2回の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	独自の施設交流会(勉強会)や系列施設の新人職員勉強会や地域の特別養護老人ホーム主催による介護技術研修会等にも参加させて頂く環境にありサービスの質の向上の取り組みが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席等は利用者様の関係性を考慮して決めている。コミュニケーションがうまく取れない利用者様は職員が間に入るようにし孤立しないように心がける。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化等出勤時の名前を呼びながらの挨拶時やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや出来る事をやっていくを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにいかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。利用者様によってはご家族との夕食や外出。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、産業祭等への参加。近所の畑や駐車場を借りる。近所でのいちご狩り、いも掘り。地域の店での買い物。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。運営推進会議への地域住民、警察、薬局、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救急救命の講習会を開き再度受講をした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の目標を避難訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高めると意識づけて行っています。地元の消防団との関わりも再開する予定です。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ時持ち物に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に。日課に沿って生活していくものの出来るだけ利用者の合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳・ヨーグルト)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝られるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉に張り合いや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブ、空港へ行く等提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的にい行い本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族から電話が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用し自立した生活が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(3号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	平成28年7月3日	評価結果市町村受理日	平成28年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2275500565-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。・一日1回は職員と1対1で散歩や外気浴に出掛け、関わりを持つ中で一人ひとりの思いを聞いていく。・職員出勤時には、利用者様一人ひとりに名前を呼んで挨拶をする。・家事の手伝い等役割をもって頂く。・火災訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から14年の月日を積み重ね、介護福祉士取得者50%超、管理者となれる人が5名、計画作成担当者となることが出来る職員は10名余と豊かな人材に恵まれています。「ゆったりと楽しく自由に」「ありのまま仲間と一緒に」「地域の中で暮らす」が育まれ、1歩足を踏み入れると職員と利用者の和合がしみじみと感じられます。特に「その人の想いを大切にすること」に尽力し、一旦退居し1年後に再入居した人もいて、介護計画書の中に「自宅に戻って暮らす」という目標をもつ利用者の方がいることに感心します。管理者の朗らかな振舞と度量に一人ひとりの職員も呼応して、利用者へのざっくばらんな関わりの中にも慈愛が感じられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活が出来るようお手伝いしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。畑を借り作物を育てる。保育園児の来設、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。行事等の時駐車場を借りる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備し、玄関の施錠も最小限の必要時以外は掛けないように取り組んでいる。「座って、待って」等スピーチロックをしまう事もあり意識しながらケアに取り組みたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化し、職員が虐待防止に関する知識を得ており、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいるため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来院した時意見や要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で気軽に意見や提案が言える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の年2回の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	独自の施設交流会(勉強会)や系列施設の新人職員勉強会や地域の特別養護老人ホーム主催による介護技術研修会等にも参加させて頂く環境にありサービスの質の向上の取り組みが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、席の配慮をし難聴の方同士の会話時等は職員が間に入る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。移動後の利用者様に会いに行ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化等出勤時の名前を呼びながらの挨拶時やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや出来る事をやっていくを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにいかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。利用者様によってはご家族との夕食や外出。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。近所の畑や駐車場を借りる。近隣の畑でも拾い。地域の店で買い物。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。運営推進会議への地域住民、看護師、薬局、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救急救命の講習会を開き再度受講をした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の目標を避難訓練及び風水害等の災害時の訓練や炊き出し訓練を行い防災に対する意識を高めると意識づけて行っています。地元の消防団との関わりも再開する予定です。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ時持ち物に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に。日課に沿って生活していくものの出来るだけ利用者の合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し全員布パンツ、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳・ヨーグルト)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝られるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉に張り合いや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブ、空港へ行く等提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的にい行い本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族から電話が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用し自立した生活が出来るようになっている。		